

Outshining  
Light



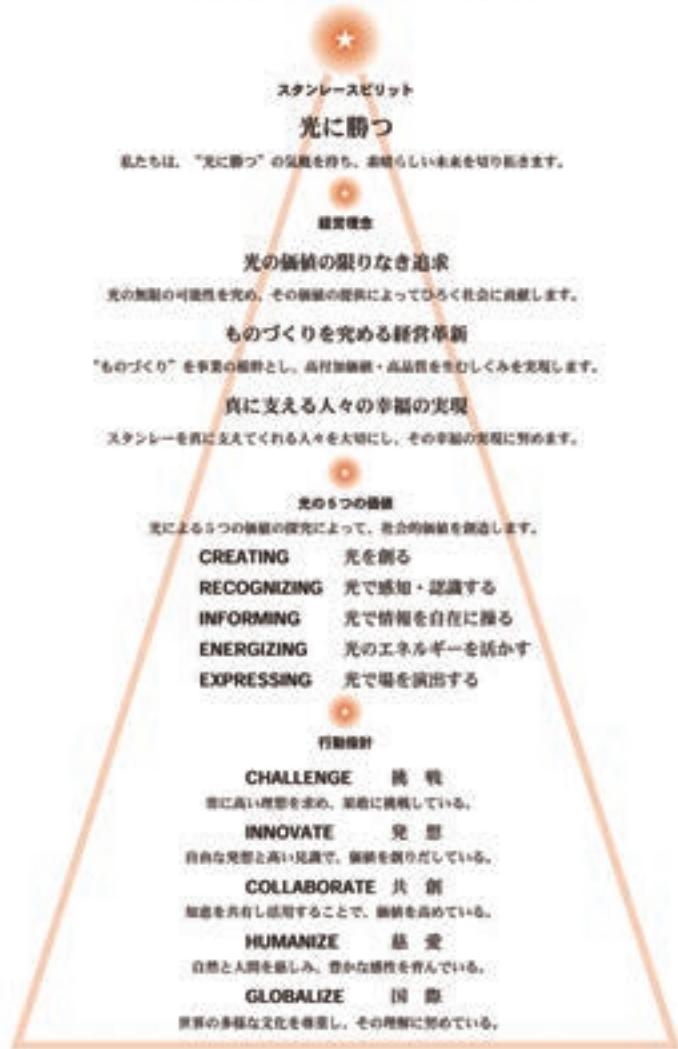
スタンレー電気株式会社  
STANLEY ELECTRIC CO., LTD.

第 112 期  
中間レポート

平成28年4月1日 ~ 平成28年9月30日

証券コード:6923

スタンレーグループビジョン



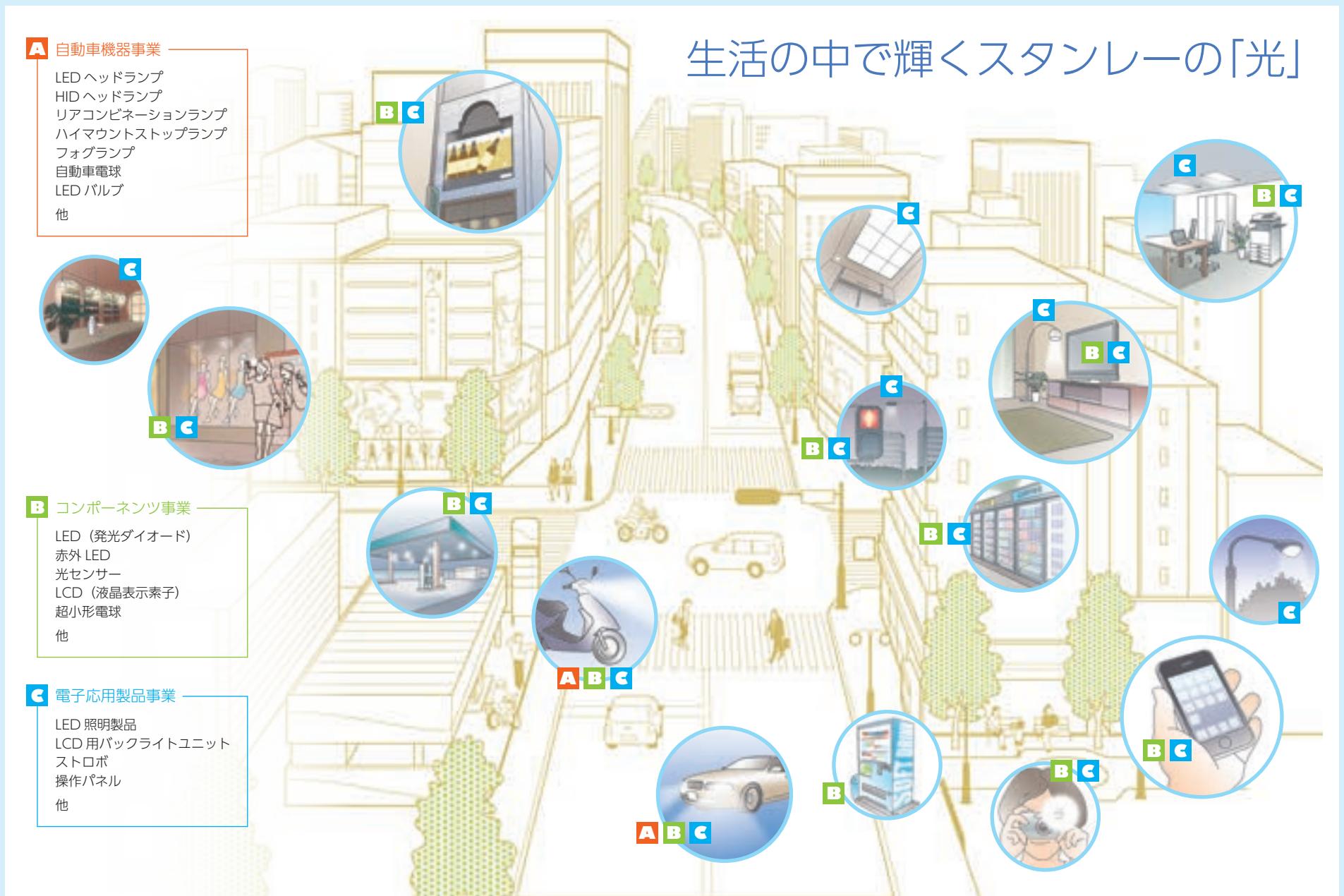
スタンレーは、世界中のスタンレーグループで共有する基本的な価値観として、「スタンレーグループビジョン」を掲げています。  
私たちは、このビジョンのもとで、「光の価値」と「ものづくり」を徹底的に究め、真に必要とされる価値を創造することで、広く社会に貢献します。

生活の中で輝くスタンレーの「光」

- A** 自動車機器事業
- LED ヘッドランプ
  - HID ヘッドランプ
  - リアコンビネーションランプ
  - ハイマウントストップランプ
  - フォグランプ
  - 自動車電球
  - LED パルブ
  - 他

- B** コンポーネンツ事業
- LED (発光ダイオード)
  - 赤外 LED
  - 光センサー
  - LCD (液晶表示素子)
  - 超小形電球
  - 他

- C** 電子応用製品事業
- LED 照明製品
  - LCD 用バックライトユニット
  - ストロボ
  - 操作パネル
  - 他



# 株主の皆様へ



株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成28年9月30日をもって第112期の第2四半期決算を行いましたので、ここに報告を申し上げます。

代表取締役社長

**北野隆典**

## ■ 全般的な営業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、弱さも見られましたが、緩やかな回復が続きました。

一方、世界経済は、米国の景気は回復が続き、欧州では緩やかに回復しました。アジアでは内需を中心に底堅い成長が見られ、中国では成長率の緩やかな低下傾向が続きました。

以上のような事業環境のもと、当社並びにグループ各社(以下、当社グループ)では、グローバルでの市場ニーズを的確に捉えた製品開発、及び受注拡大を目指した営業力強化や生産能力の増強、そして生産工程や間接部門の徹底的なムダ取りといった生産革新活動による生産性向上等を着実に実行しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間において、売上高は1,799億5千2百万円(前年同期比10.9%減)、営業利益は170億4千4百万円(前年同期比9.7%増)、経常利益は177億4千6百万円(前年同期比15.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は108億4千1百万円(前年同期比9.0%増)となりました。

## ■ 連結財政状態について

当第2四半期連結会計期間末における総資産は4,124億5千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ186億4千6百万円減少しております。主な要因は、流動資産が104億2千4百万円及び固定資産が82億2千2百万円減少したこと

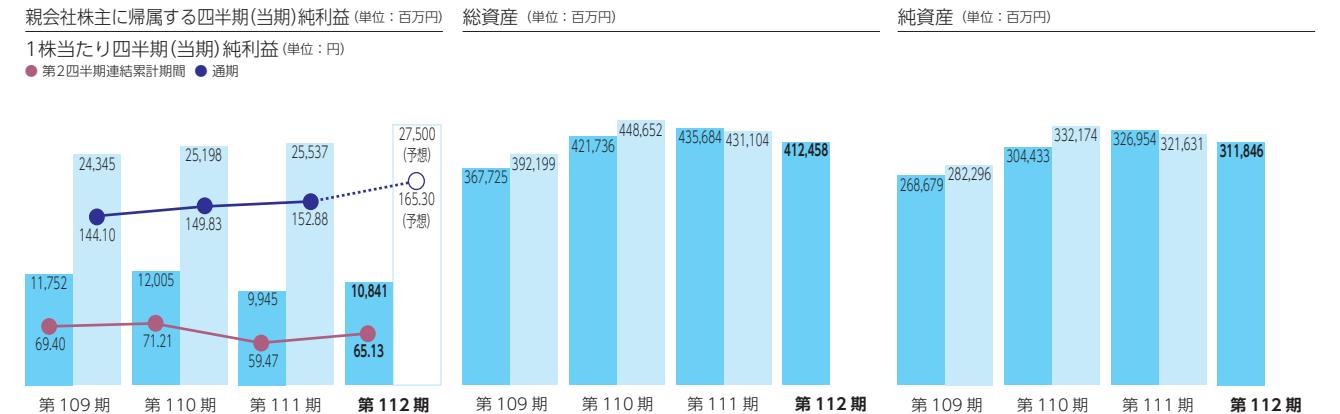
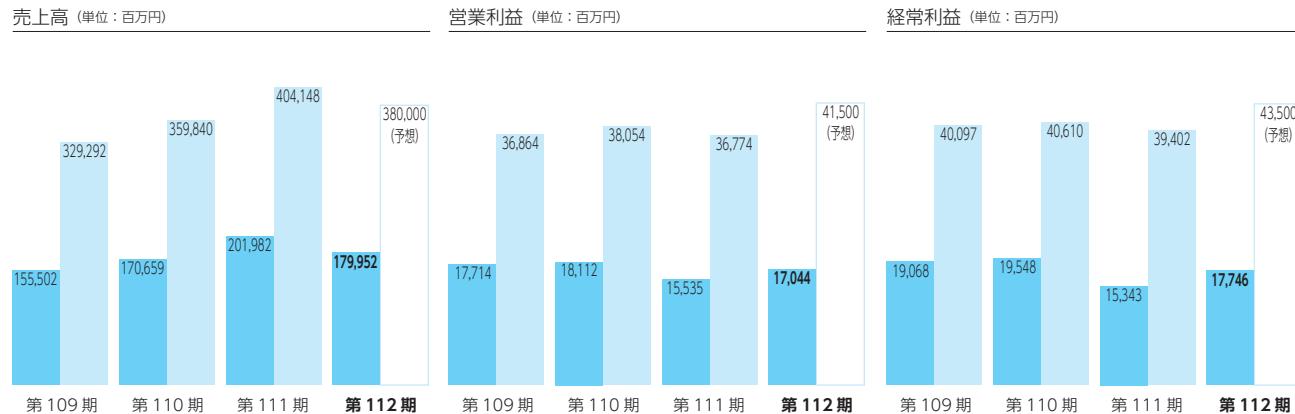
によるものです。流動資産の減少は、受取手形及び売掛金が減少したこと及び有価証券が減少したこと等によるものです。固定資産の減少は、主に株価の下落等により投資有価証券が減少したこと等によるものです。

負債は1,006億1千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ88億6千1百万円減少しております。主な要因は、退職給付に係る負債が減少したこと及び支払手形及び買掛金が減少したこと等によるものです。

純資産は3,118億4千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ97億8千4百万円減少しております。主な要因は、株主資本が73億5千2百万円増加したものの、その他の包括利益累計額が144億4千9百万円減少したこと等によるものです。株主資本の増加は、配当金の支払いがあったものの、

## 連結財務ハイライト

■ 第2四半期連結累計期間 ■ 通期



スタンレーの最新技術をご紹介します。

親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等によるものです。また、その他の包括利益累計額の減少は、為替レートの変動に伴い為替換算調整勘定が減少したこと及び株価の下落によりその他有価証券評価差額金が減少したことによるものです。

■ 連結業績予想と配当の状況について

当社の配当金につきましては、安定した配当の維持及び適正な利益還元を基本としており、連結配当性向20%以上、自己株の取得を含めた総還元性向は、連結で35%以上を目標としております。

当第2四半期末の配当金につきましては、第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益が業績予想を上回っていることから、上記の目標に基づき、1株当たりの配当金を直近の予想から1円増額し18円といたします。

なお、期末配当金は配当予定額を変更せず1株当たり18円とし第2四半期末の配当金と合わせた年間配当金を1株当たり36円とさせて頂く予定であります。

\*

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

通期の連結業績予想 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

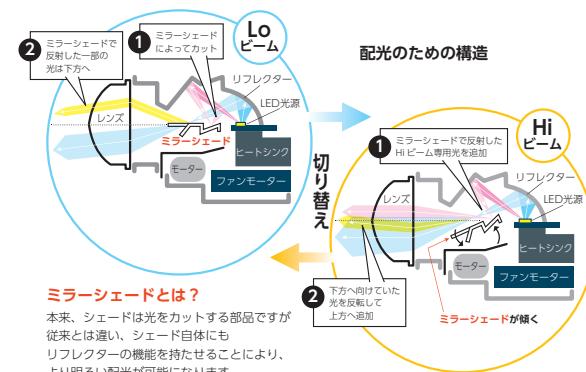
	百万円	%
売上高	380,000	△6.0
営業利益	41,500	12.8
経常利益	43,500	10.4
親会社株主に帰属する当期純利益	27,500	7.7
1株当たり当期純利益	165.30	-

※%表示は、対前期増減率。  
 ※当業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、為替等のリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

ひとつのユニットでハイとローの切り替えが可能

Bi-LEDヘッドランプユニット

これまでのLEDヘッドランプはハイビームとロービームをそれぞれ専用のライトユニットで受け持つ「四灯式」を採用しており、ヘッドランプの小型化が困難でした。スタンレーは独自の配光技術と駆動技術、放熱技術の採用により、ハイビームとロービームの切り替えをひとつのユニットで可能にしたBi-LEDヘッドランプユニットを開発しました。



様々な分野への採用が進む

冷陰極UVランプ (UV-CCL)

スタンレーは長年培った光技術と管球技術を融合し、紫外線ランプ「冷陰極UVランプ(UV-CCL)」を開発し、脱臭や殺菌、浄水など、様々な分野への採用が進んでいます。このたび、コンパクトで長寿命、確かな殺菌力の特徴を活かし、中国のシャオミグループ、ユンミーの浄水器に初めて採用されました。



六本木の巨大彫刻を効果的に照らす

LED灯光器

六本木ヒルズを東京の文化の中心にする活動の一環としてスタートした「六本木ヒルズパブリックアート&デザインプロジェクト」。そのメインエントランスで来場者を出迎えるのがルイズ・ブルジョア作の蜘蛛の彫刻「ママン」です。高さ9mのこの巨大な彫刻を夜間に照らし出すのが、スタンレーのLED灯光器。超狭角3°の配光がアートを効果的に浮かび上がらせます。また、独自の光学レンズの採用で光を効率的に取り出し、わずか25Wの消費電力と薄型軽量化を実現しています。



# NEWS & TOPICS

## No. 100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT SUPER GT 第5戦で3位獲得、表彰台へ!



▲待ちわびた表彰台へ 山本選手(左)、伊沢選手(右)

スタンレーが自動車用品のブランド「RAYBRIG」でスポンサーとしてSUPER GTに参戦するチームクニミツが、8月6日(土)～7日(日)に富士スピードウェイ(静岡)で開催された第5戦で3位となりました。

高橋国光総監督のもと、山本尚貴選手、伊沢拓也選手の布陣で臨んだチームクニミツは、アクシデントの影響で予選を7番手で終えましたが、翌日の決勝では3万3千人の観客が見守る中、テール・トゥー・ノーズ、サイドバイサイドの熱戦を繰り広げて場内を盛り上げ3位をキープし、待ちわびた今季初の表彰台に上がりました。

▼激走するNo. 100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT

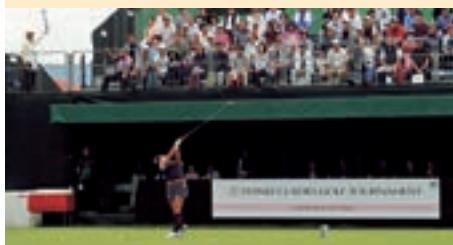


## スタンレー レディスゴルフトーナメントを通じた寄付で福島県より表彰

スタンレーは、一般社団法人日本女子プロゴルフ協会が公認するスタンレーレディスゴルフトーナメントを主催しており、2011年から大会を通じ、東日本大震災の復興支援のために寄付活動を行っています。

これは大会期間中に選手が獲得したポイントに応じた金額を寄付するもので、岩手、宮城、福島の3県に対しては、震災孤児・遺児の皆さんのために提供してきました。このたびこの活動に対し福島県より感謝状を授与されました。

スタンレーはこれからも大会を通じ、広く社会に対する貢献活動を続けます。



▲2016年スタンレーレディスゴルフトーナメントの様子(バーディー1P、イーグル4P、ホールインワン6P、アルバトロス8Pで、1Pにつき1万円を寄付)



▲9月12日(月)福島県東京事務所 所長・金成孝典様(右)が来訪され、感謝状が授与されました

▶授与された感謝状  
これまで3県に対し、5,335万円が寄付されました



## 岡崎製作所の再構築に向けて地鎮祭を開催

当社自動車機器事業の主力生産拠点である岡崎製作所(愛知・岡崎)は、建築から35年が経過し老朽化が進んだことから、かねてより再構築が計画されていましたが、このたびその準備が整い、9月28日(水)、現製作所の敷地内で地鎮祭が執り行われました。

再構築にあたっては国内生産拠点の最大限の活用を考慮したうえで、付加価値の高い生産をコンセプトに、現在の構造をムダなく活かした改修と建て直しにより生産活動を継続しながら、2019年12月の完了を目標としています。

再構築完了後の新生岡崎製作所の飛躍が期待されます。



▲地元の神職を招いての地鎮祭

▼再構築完了後の岡崎製作所完成予想図  
さらなる飛躍が期待されます



## 公益財団法人北野生涯教育振興会が目黒区に彫刻を寄付



▲寄贈された彫刻作品「雨をつかむ」

スタンレーの創業者、北野隆春により1975年に設立された公益財団法人北野生涯教育振興会(当時は財団法人、以下北野財団)は、このたび創立40周年事業の一環として若手芸術家の育成を目的に彫刻作品を公募し、その作品を所在地である目黒区に寄贈しました。

9月28日(水)に開催された贈呈式には、作者の松井雅世氏、青木英二目黒区長をはじめとする区関係者、財団関係者が集い、作品「雨をつかむ」がお披露目されました。

北野財団は創立以来一貫して生涯教育のための奨学助成や研修会などの支援活動を続けており、今後も働きながら勉強を続ける人々が、「いつでもどこでもだれでも学べる」機会を提供する活動を続けてゆきます。

▶作者の松井雅世氏  
(多摩美術大学助手)



## MAISON & OBJET PARIS 2016に出展

9月2日(金)から6日(火)まで、フランス・パリのノールヴィルバント見本市会場で開催されたMAISON & OBJET 2016に協賛出展しました。本見本市は世界から約3,000社が出展し、6万5千人が来場する世界でも有数のインテリアの国際見本市です。

見本市の光のテーマ展示を、世界的な照明デザイナーの石井幹子氏、石井リーサ明理氏が手がけており、そのコンセプトである「LIGHT TREND」の発信に共感したスタンレー電気も2013年より協賛出展しています。

今回は芸術的パフォーマンスに応用された最先端照明技術として紹介され、多くの来場者の注目を集めました。



▲ピラミッド型の光の彫刻



▲MEMS+レーザースポットで変貌するビジュアール

▶マルチカラー投光器を使用した光と色をミックスしたインスタレーション

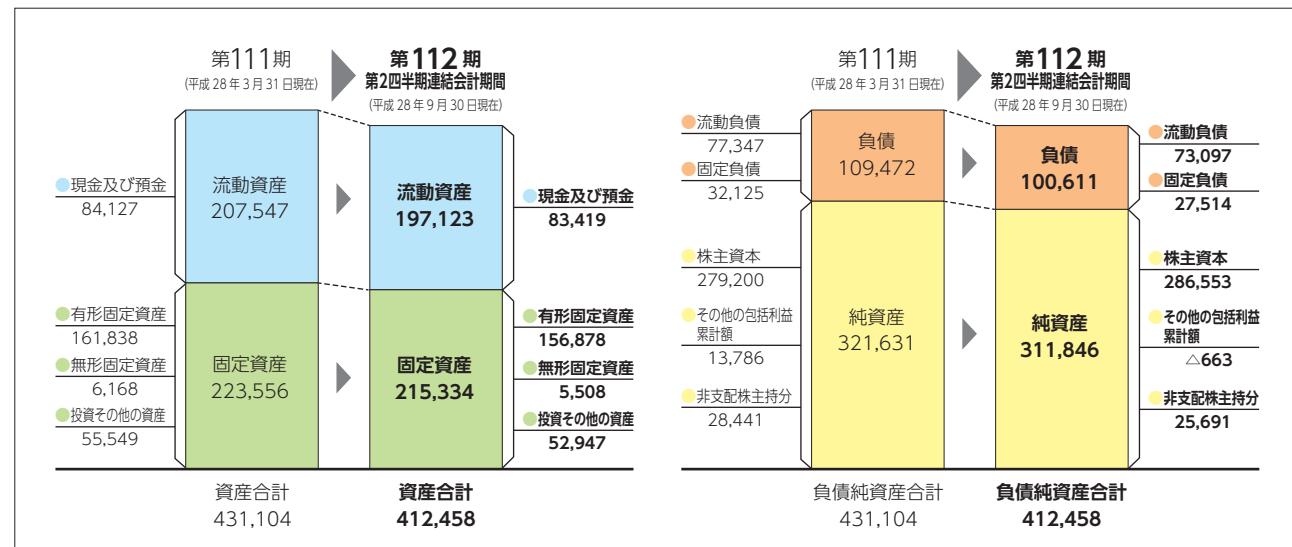
# セグメント情報

<p><b>自動車機器事業 売上高1,405億4千2百万円</b></p> <p>売上高の推移(単位:百万円)</p> <p>第111期 第2四半期連結累計期間 第112期 第2四半期連結累計期間</p> <p>売上構成比</p> <p>78.1%</p> <p>主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● LEDヘッドランプ</li> <li>● HIDヘッドランプ</li> <li>● リアコンビネーションランプ</li> <li>● ハイマウントストップランプ</li> <li>● フォグランプ</li> <li>● 自動車電球</li> <li>● LEDバルブ 他</li> </ul> <p>Bi-ADB LEDヘッドランプ</p> <p>車両写真提供: マツダ株式会社</p> <p>二輪車用ヘッドランプ</p> <p>●世界の自動車生産台数は、日本、米州で横ばい、アジアで微増、欧州、中国で増加となり、全体として増加となりました。二輪車生産台数では、日本、米州、中国で減少となり、欧州で増加、アジアで微増となったものの、全体として減少となりました。</p> <p>このような市場環境のもと、当社グループの自動車機器事業は、前期、米州の金型会計処理の統一による一時的な売上の増加があったことと、為替が円高に推移したことが影響し減収となったものの、当社が光源から一貫して製造しているLEDヘッドランプの採用車種が増加したに加え、前期の一過性費用からの回復により、増益となりました。</p> <p>その結果、当第2四半期連結累計期間における自動車機器事業の売上高は1,405億4千2百万円(前年同期比9.2%減)、営業利益は100億3千4百万円(前年同期比9.7%増)となりました。</p>	<p><b>コンポーネンツ事業 売上高144億1千1百万円</b></p> <p>売上高の推移(単位:百万円)</p> <p>第111期 第2四半期連結累計期間 第112期 第2四半期連結累計期間</p> <p>売上構成比</p> <p>8.0%</p> <p>主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● LED(発光ダイオード)</li> <li>● 赤外LED</li> <li>● 光センサー</li> <li>● LCD(液晶表示素子)</li> <li>● 超小形電球 他</li> </ul> <p>車載用LED(右下)</p> <p>車両写真提供: 本田技研工業株式会社</p> <p>GPLのオブジェ</p> <p>ガラスパッケージLED (GPL)</p> <p>●当セグメントが関連するLED照明市場は増加、車載市場、情報通信市場は微増となったものの、遊技市場は微減、AV市場は減少となりました。</p> <p>このような市場環境のもと、当社グループのコンポーネンツ事業(LED、液晶等)は、遊技、AV市場及び産業機器向け等のLED、自動車用電球が減少し減収となったものの、LEDヘッドランプなどの光源として用いられる車載用LEDが増加したことで、増益となりました。</p> <p>その結果、当第2四半期連結累計期間におけるコンポーネンツ事業の売上高は144億1千1百万円(前年同期比7.7%減)、営業利益は27億1千8百万円(前年同期比31.2%増)となりました。</p>	<p><b>電子応用製品事業 売上高249億2百万円</b></p> <p>売上高の推移(単位:百万円)</p> <p>第111期 第2四半期連結累計期間 第112期 第2四半期連結累計期間</p> <p>売上構成比</p> <p>13.8%</p> <p>主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● LED照明製品</li> <li>● LCD用バックライトユニット</li> <li>● ストロボ</li> <li>● 操作パネル 他</li> </ul> <p>演出用LED照明</p> <p>OA操作パネル</p> <p>●当セグメントが関連する車載インテリア市場、LED照明市場は増加となったものの、OA市場は微減、AV市場のうちカメラ市場は減少となりました。</p> <p>このような市場環境のもと、当社グループの電子応用製品事業(LED照明製品、液晶用バックライト、ストロボ、操作パネル等)は、PC用バックライト、ストロボが減少し、減収減益となりました。</p> <p>その結果、当第2四半期連結累計期間における電子応用製品事業の売上高は249億2百万円(前年同期比20.6%減)、営業利益は30億4千2百万円(前年同期比3.2%減)となりました。</p>
<p><b>その他 売上高9千7百万円</b></p> <p>主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 金型の設計・開発及び製造・販売の事業</li> <li>● 身体障害者雇用促進事業</li> <li>● グループに対する金融・経営サービス 他</li> </ul> <p>●当第2四半期連結会計期間におけるその他の売上高は9千7百万円、営業損失は1千万円となりました。</p>		

# 連結決算概要

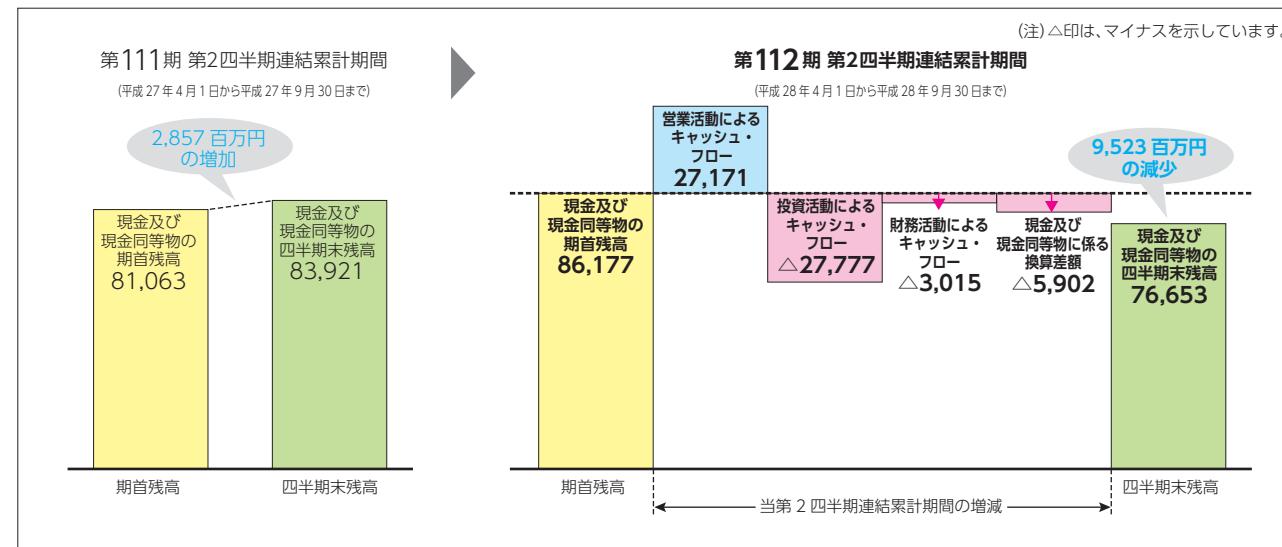
連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

(百万円未満切捨て)



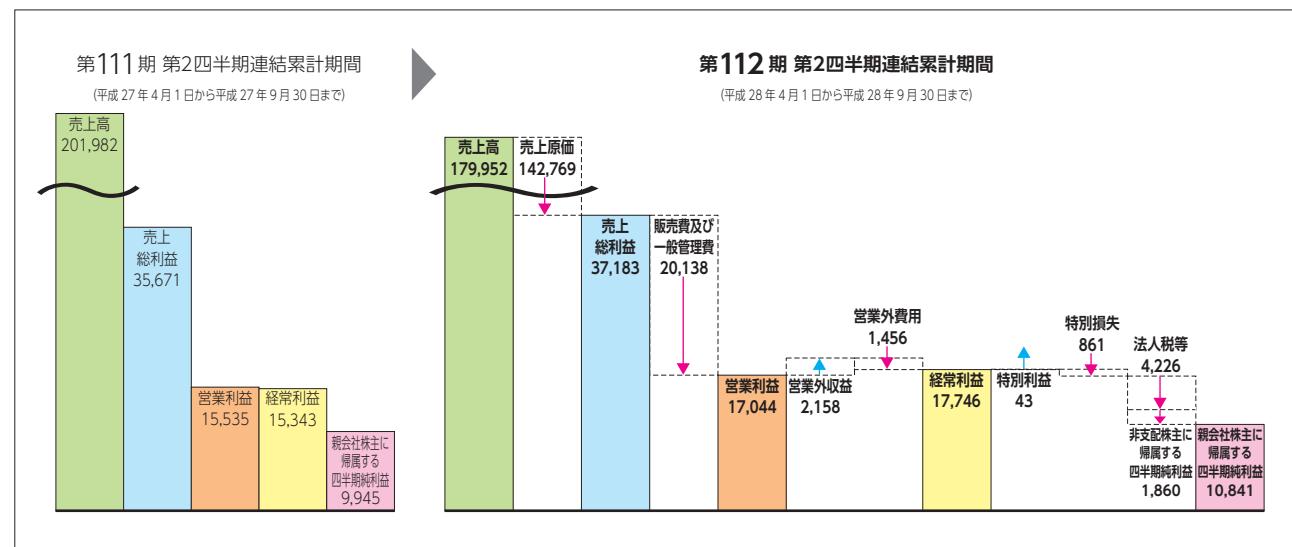
連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)

(百万円未満切捨て)



連結損益計算書の概要 (単位:百万円)

(百万円未満切捨て)



連結の範囲

連結子会社	国内 (8社)	株式会社スタンレーいわき製作所 株式会社スタンレー鶴岡製作所 株式会社スタンレー新潟製作所	他
海外 (30社)	Stanley Electric U. S. Co., Inc. Stanley Co., Inc. Stanley Electric Holding of America, Inc. Stanley Electric do Brasil Ltda. Stanley Electric Manufacturing Mexico S.A. de C.V. 天津斯坦雷電気有限公司 天津斯坦雷電気科技有限公司 広州斯坦雷電気有限公司 斯坦雷電気 (中国) 投資有限公司		他
持分法適用会社	海外 (3社)	Thai Stanley Electric Public Co., Ltd. Hella-Stanley Holding Pty Ltd Lumax Industries Ltd.	

区分	第111期 第2四半期連結累計期間	第112期 第2四半期連結累計期間
	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日	平成28年4月1日～ 平成28年9月30日
連結子会社数	38社	38社
持分法適用会社数	3社	3社
合計	41社	41社

# 会社・役員概要 (平成28年9月30日現在)

## 会社の概要

創業	大正9年12月29日(1920年)
設立	昭和8年 5月 5日(1933年)
資本金	30,514百万円
社員数	当社グループ 16,125人 当社 3,483人

## 事業所

本社	東京都目黒区中目黒2-9-13 技術研究所(横浜) 宇都宮技術センター 横浜技術センター オプトテクニカルセンター(横浜)
研究所	
支店	大阪/名古屋
営業拠点	大宮/狭山/朝霞/鈴鹿
製作所 工場等	秦野/岡崎/浜松/広島/山形

## 取締役・監査役

代表取締役社長	北野 隆典
常務取締役	平塚 豊
取締役	田辺 徹
取締役	飯野 勝利
取締役	下田 浩二
取締役	高森 啓之
取締役	米谷 光弘
社外取締役	森 正勝
社外取締役	河野 宏和
常勤監査役	山口 隆太
常勤監査役	古田 透
社外監査役	山内 悦嗣
社外監査役	網谷 充弘
社外監査役	菅野 寛

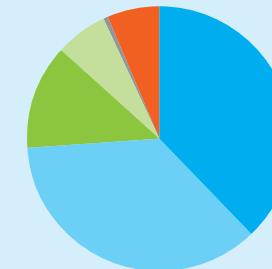
# 株式等の状況 (平成28年9月30日現在)

## 株式の総数及び株主数

発行可能株式総数	750,000,000株
発行済株式の総数	177,100,000株
総株主数	10,083名

## 株式の所有者別割合

● 金融機関	37.81%
● 外国法人等	36.18%
● その他の法人	12.78%
● 個人・その他	6.39%
● 金融商品取引業者	0.60%
● 政府・地方公共団体	0.11%
● 自己株式	6.13%



## 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	10,430	6.27
本田技研工業株式会社	9,235	5.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,233	4.95
株式会社三井住友銀行	8,111	4.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,770	4.67
日本生命保険相互会社	6,886	4.14
野村信託銀行株式会社(退職給付信託三菱東京UFJ銀行口)	5,440	3.27
JP MORGAN CHASE BANK 385632	4,872	2.93
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,677	1.61
公益財団法人北野生涯教育振興会	2,566	1.54

(注1) 当社は、平成28年9月30日現在自己株式を10,849千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
(注2) 持株比率は自己株式(10,849千株)を控除して計算しております。

## ● 中間配当

平成28年10月31日開催の取締役会において、第112期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)中間配当金の支払について、下記のとおり決議いたしました。

<記>	
当社定款の規定に基づき、平成28年9月30日を基準日として、次のとおり第112期中間配当金を支払う。	
1. 中間配当金	1株につき金18円
2. 効力発生日及び支払開始日	平成28年11月29日(火曜日)



# 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	6月	
	定時株主総会	3月31日
基準日	期末配当	3月31日
	中間配当	9月30日
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 公告掲載のホームページアドレス <a href="http://www.stanley.co.jp/profile/index.html">http://www.stanley.co.jp/profile/index.html</a>	
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)	
単元株式数	100株	

## 株式に関する手続き

- 株主さまの住所・氏名のご変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座(※)に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。

## お問い合わせ先・郵便物送付先

〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 0120-232-711 (平日9:00~17:00・通話料無料)  
(お手持用紙請求) 0120-244-479 (24時間音声自動応答・通話料無料)  
インターネットによるダウンロード  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

※株券電子化前に証券保管振替機構に預託されなかった株式につきましては、三菱UFJ信託銀行に開設いたしました特別口座に記録されております。

- 未受領の配当金のお支払請求につきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。



**スタンレー電気株式会社**  
STANLEY ELECTRIC CO., LTD.

〒153-8636 東京都目黒区中目黒2-9-13  
TEL:03-6866-2222 FAX:03-6866-2678  
URL:<http://www.stanley.co.jp/>